

L'Amour et les Français

♥愛とフランス♥

手崎 千紘

恋愛大国フランス♥なぜそんな風と呼ばれるのだろうと疑問に思い、フランスの恋愛、結婚に興味をもったので調べてみました！

寝ても覚めても恋の話をするフランス人。フランスのカフェやレストランにはバラを売りにくる人がいます。「このバラを目の前のレディーにプレゼントしませんか？」と声をかけてくるそう。デートのときに花を贈るフランス人男性の需要にうまく答えた商売です。

フランス語は愛の言葉が非常に多い言語です。Je t'aime à la folie. (狂おしいほど愛してる)、Tu me fais craquer. (君にメロメロなんだ)、Tu es tout pour moi. (君が僕のすべてだ) など恥ずかしくなってしまうような言葉をフランス人は当たり前に使っているようです。

恋人の愛称もたくさんあります。よくつかわれている順に並べてみました。

1. Ma / Mon chéri / Mon amour (ダーリン)
2. Mon coeur / Mon petit coeur (私の心)
3. Bébé / Mon bébé (英語でいうベイビー)
4. Ma puce (私のノミ)
5. Loulou (意味はない)



フランスのカップルはところかまわず、どこでも普通にキスをします。人がみていようがいまいが、堂々と熱いキスが街中で繰り広げられています。日本では珍しいですが、子どものいる前でディープキスをするのも当たり前です。子どものころから恋愛にオープンな環境で育つのも、恋愛の国といわれる理由かもしれません。

またフランスは昔から恋愛に深く関わった歴史・文化が多く、それは芝居やシャンソン(フランスの伝統的な歌)などにも表れています。12世紀に盛んであった貴婦人と騎士の「騎士道恋愛」。それが語り継がれ、芝居にもなっています。シャンソンも恋愛の話が多いです。

今も昔も恋愛が盛んなフランス。現在のフランスの恋愛事情について調べてみました。

次のページへ！

日本では両親や会社からのプレッシャーがとても大きい結婚。フランスで結婚は減っていてあまり人気がないようです。

カップルで一番多いのは、ユニオン・リーブル（自由な結びつき）で、「同棲」ほど軽い意味ではなく、日本でいう「事実婚」のようなもの。そして今一番人気なのは、パクス（PACS：連帯民事契約）という結婚より緩やかな法的な契約関係。最近日本でも紹介されています。これは1999年に、同性愛者のカップルが結婚のようにお互いの関係を法的に認めさせるためにつくられた法律です。スタート時は、同性愛者の利用者が多かったのですが、今では異性愛のカップルが9割です。結婚は年々減り、PACSを結ぶカップルは年々増え続けています。フランスの離婚の手続きは複雑ですが、PACSなら解消したいときは一方からでも簡単にできます。PACSを結ぶカップルは基本的に結婚となる率が高く、3、4年間、または7年間共に暮らした後、結婚します。フランスで結婚とは「スタート」ではなく「エンド」だといえるでしょう。

また、日本では子供を持つためには結婚が必要と考える人が多いです。今では「デキ婚」も増えています。しかし、フランスで「結婚→子供」というパターンはもう少数派。好きだから一緒に暮らして愛しているから子どもをつくる、という自然な流れ。結婚と子供は別々に考えられています。ユニオン・リーブルやPACSの場合に子どもが生まれたら、父親が役所に「自分が父親である」と届けを出します。子どもへの相続と結婚は全く関係がなく、たとえ遺言を書いても、財産の75%~80%は子どもに相続されます。なので、父親が亡くなった時に、会ったこともない異母兄弟が現れるケースもあるようです。



さきほど、同性愛者のためにPACSがつくられた、といましたが、先月フランス大統領のオランド氏が同性婚を合法化しました。それに基づき、5月29日、フランス南部モンペリエの市役所で初の同性カップルの結婚式が行われました。

同性婚反対の大規模なデモもあったそうです。

母親、父親が二人というような考えはもともとカトリックのフランスにはあり得ないという意見もたくさんあるそうです。

♥感想♥

バラ売りや、フランス語の愛の言葉の多さ、街にいるアツアツのカップル。このような面からフランスは恋愛大国と呼ばれるのでしょうか。またフランスの新しい考え方はとてもおもしろく、勉強になりました。結婚にこだわらず、好きだから一緒に暮らし、愛しているから子どもをつくるという考え方は素敵だなと感じました。

同性婚を最近合法化したフランス。個人の自由を求め、男女の恋愛も自由になっているフランスは日々進化し続けています。恋愛に対してとても熱い国だと思います。ちなみに、フランスにとって恋愛の国はイタリアだそうです！

PACSについては「ママより女」の著者、フランス人ジャーナリスト、ドラ・トーザンさんのインタビューから調べたものです。興味を持った方はぜひ本を読んでみてください。